

第2回 伊豆市総合計画審議会議事録

開催日時	平成29年12月19日（火）午後7時～9時
開催場所	生きいきプラザ第1.2会議室
出席委員	遠藤護委員、植松真由美委員、青木喜代司委員、浅田郁雄委員、浅田恵子委員、安藤孔治委員、飯田正志委員、梅原龍一委員、勝呂義衛委員、田足井みさ子委員、出川奈央委員、永岡正人委員、渡邊一夫委員 【13名】
欠席委員	小森泰信委員、仙座夏子委員 【2名】
伊豆市	西井教育長、田村市長政策監兼総合政策部長、伊郷総務部長、佐野防災監、梅原市民部長、村井健康福祉部長、堀江産業部長、山田建設部長、長谷川会計管理者、植田議会事務局長、金刺教育部長
事務局	佐藤総合戦略課長、三浦主幹、杉山主査、渡邊主任、下村主任、浅田副主任

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

(1)総合計画改定に係る全体像の整理について【資料1-1、1-2、1-3】

(2)総合計画改定に係る修正案について【資料2】

【議事(1)に関する質問・意見等】

議事（1）について、特に質問はなかった。

【議事(2)に関する質問・意見等】

＜重点目標1＞

- 委員） 修善寺駅を中心に賑わいを持たせることについて、塾帰り等の高校生が保護者を待っている居場所がないので、子供たちが安心して待っていただける居場所を検討していただきたい。
- 委員） 修善寺駅は交通の便が非常に悪く、何の工夫もない。駅周辺にパークアンドライドや大きな駐車場を設けるなど、根本的な改革をしないと今の状態では使えない。いくら駅前をきれいにしても効果がないと思う。せつかく基本計画を作るのであれば、根本的な部分で大きな改革を追記していただきたい。
- 委員） 修善寺町の時に、駐車場の整備等の計画はあった。しかし駅周辺は個人個人の土地であるため、一人でも反対されたら何もできない。今更駅前を何とかするというよりも、やはり別の平らな土地に新たにまちを造ったほうが早くていいものができると思う。
- 事務局） 前期基本計画が2年経過し、5ヶ年計画のあと3年で目標が達成するかというと、そこまでは難しい状況である。以前修善寺橋の耐震補強を行っており、すぐに架替えはできない状況である。また県と伊豆市建設部で連携しパーソントリップ計画を策定中である。まずは前期の中で、歩行者空間を含めて今より少し快適にできる内容しか掲げていない。
- 委員） 息子が学校にバスで通っているが、バスの本数が少ない。以前駅で観光客がバスの本数が少なく、待つ場所もないことに驚いていた。もう少し本数を増やしてもらえるとありがたいが、実際利用者数が少なければ難しいかもしれない。毎日利用する学生が不便と思っているのに、観光客はもっと不便を感じる。もっと交通機関の充実を図ってほしい。
- 委員） こういった地形の中でどう改善していくかが大切である。今後交通の便を如何に良くするか、10年後20年後を想定して良い知恵を絞っていくのがベストである。中学の統合や2020年をめざし、如何におもてなしをしていくのか、交通整理や歩道、信号等の改善等、細かなところから実行していく必要がある。

<重点目標2>

- 委員) 市営住宅にかなりの空きがある。場所によっては老朽したものもかなりある。せっかく公営住宅があるのであれば有効活用（空き具合のPR活動等）や積極的に入居してもらえようような施策を作ってもらいたい。
- 事務局) 空き家や公共施設の既存ストックについて有効活用をしていかなければならない。市営住宅は現在約1割程度空きがあるようだが、今後、今あるものを残すのか、集約するか等を含め、住宅政策については考えていく必要がある。
- 委員) 伊豆市にどうしたら住みたいかを考えると、子育ての充実、教育環境、安全安心なまち、医療機関の充実が考えられ、そういったものの最大公約数を総合計画にまとめなければならない。色々な人が考えを持っているので、こうした意見をどう整理していくのか、また理解していただけるのが難しい。また2020年オリンピックについては短期間のものであるため、リオのオリンピック会場のように負の遺産問題とならないように、いいところばかり拾うのではなく、整理していただきたい。

<重点目標3>

- 委員) 産業力の強化や観光の件ですが、日本農業遺産にわさびの水栽培が認定され、県も世界遺産の認証に向けて準備をしている。総合計画の中では、そういう流れの中での項目については記載がないのか。
- 事務局) 現在の修正案では日本農業遺産といった具体的な名称は入っていないが、伊豆市の特産品をどの様にPR活動していくかは、現行の総合計画にも記載されている。現行の総合計画P71のブランド化のところ農業資源の活用等の記載はあり、今後具体的な事業として取り組んでいきたい。
- 委員) 観光産業における雇用環境の充実<職住一体の就労支援と雇用マッチング>について、観光客は伊豆市を見に来る訳だが、景観や伊豆市の魅力を今後どう作っていくのかがわからない。
- 事務局) 伊豆市における観光客数は現在やや盛り返してきている状況であるが、観光産業の就業者が募集しても集まらない状況である。こうしたことから、基幹産業に対してのパッケージを考え、今後何が産業の雇用や働く人の増加に繋がるかを検討していきたい。
- 委員) オリンピックを契機にまちづくりを行うことになっているが、ペロドローームに行くには公共交通機関を使用することになる。修善寺駅を降りた外国人の方は言葉もわからなければ、駅周辺にどういったお店があるかもわからないため、英語表記や写真、イラストなどを用い、誰もが理解

- 委員) できるような案内をし、外国人の方に対し積極的にPR、おもてなしをしたほうがよい。そうでなければ三島市や東京に人が動いてしまうこととなる。また細い道が多いため、交通規制等も行ったほうがよいと思う。
- 委員) 商工について、次の時代を担う跡継ぎがないという方が多い。観光産業を進めて、その周辺の商工業者も発展していくのであればいいが、一部の観光業者は、最近、地域商工業者を相手にしなくなっている。そのため、閉店が早く、まち自体が早々に暗くなる。やはり明るく賑やかなところに人は集まるので、観光業を盛り上げるのはいいが、地元商工業者を優先して使っていただけるような組織、まちにしてみらいたい。地元商工業者が生き生きと働くことができれば、観光業も伸びてくると思うので、総合計画の中に、その他産業についても評価する項目を入れていただきたい。今DMOとか産業評価を行っているが、これが実際仕事に反映してこないのが今の現状であり、最近できた産業力強化会議が浸透すればと思っている。
- 委員) 全てが観光産業の内容になっているため、地元産業の雇用環境等について記述を盛り込んでほしい。
- 事務局) 全産業の視点ということで検討させていただく。もともと産業力の強化で様々な産業を行っていくところを記載している中で、今回、基幹産業の雇用面のサポートについて特出させていただいた。但し市、農協、観光協会及び商工会で構成された（一社）産業振興協議会が既に動き出しており、この記載をもって全産業をうまく回していくというものと理解していただきたい。
- 委員) 観光産業のすそ野より建設業のほうが広いと思う。観光産業にこだわるのではなく、地元産業とか地域産業の雇用環境の向上といった文言に換えてもいいのではないかな。
- 事務局) 有効求人倍率の数字も参考に、雇用の状況と雇用のミスマッチがあるのかを確認しながら、検討させていただく。
- 委員) 新しく起こす企業の誘致とか対処についての文言がないように思う。企業を誘致すれば10年後、20年後にはもう少しいい伊豆市ができると思う。
- 事務局) ご指摘の内容については、現行の総合計画に記載がある。
- 事務局) 今回配布した資料では、観光に特化した文言のように思われるが、資料は現行の総合計画を踏襲しつつ、一部記載変更や追加事項をまとめたものである。よって委員のみなさんに誤解が生じてしまった。先ほど出した貴重な意見については、参考とさせていただきたい。

<重点目標4>

委員) ふるさと納税の件数が5000件、金額が3億円と増えているが、この内容の対策は何かあるのか。伊豆市に眠っている産業を改めて掘り起し、その魅力を市から発信するというのを是非行ってほしい。

事務局) まち・ひと・しごと総合戦略が平成27年度に策定され、その中の指標でもふるさと納税の目標額を掲げており、なんとかふるさと納税が上向いている状況である。そういったことから、総合戦略で掲げた実績目標と同じく上方修正を行い3億円とした。今後も様々な取り組みを行っていく中で、伊豆に関心を持っている方に対してのアプローチや情報提供を行い、伊豆に関心を持っていただける人を増やしていくことも必要であるとする。

委員) 今の数字が増えている根拠を教えてください。

事務局) ふるさと納税が始まったときは、使用される件数も多くなく、実績としても非常に少ない額であった。その後全国的に関心もたれ、伊豆市も実績が上がってきたので、上方修正を行った。

委員) 外国人の宿泊客数については、総合計画を作成する前の値であるが、平成27年度以降、中国人をはじめとした旅行客が増えたため、目標値をプラス10万人と設定した。これは2年前に作成した総合計画の値であり、今回の修正事項ではない。

委員) 子供たちがここで住みたいという気持ちがどんなところにあるのかを考えると、つながりが形となる場があればいいと思う。例えば看護師や先生になりたい方が、地元の活動を通して、また地元に戻って何かやりたいという、そういったものが形になっていけばいいと思う。今色々な体験学習などがあり、子供たちも地元の職業体験を行う中で、自分たちも地元に住みたいという環境になってほしい。また子ども、障がい者、高齢者施設が個々にできるのではなく、赤ちゃんからお年寄りまでが居る複合施設を作ることで、子どもが預けやすくなったり、ボランティアの仕事ができたりするのが理想である。できたら細かなことで人々が共生できる施設や住む場所があればいいと思う。

委員) オリンピック開催に当たり、ボランティアの確保とあるが、ボランティアで参加できる人はなかなか見つからないのではないかと。積極性を持つて人を探せば、参加してくれると思うが、伊豆市の中だけで探すのは難しいと思う。何か団体を率いている人は、何かを引き付けるものを持っているため、そういう人、団体のつながりを持たせれば県と連携するまでもなく伊豆市のみでできるのではないかと。また一番大事なことは、地域の人たちが一つのことに集中できるか、若しくは住んでいる

人たちがいい気分になれるのかということである。人々が交流する場所を作ることが大切であり、そうすることで人とのつながりも持てる。

事務局)

伊豆市の暮らしで何が不便か、何が便利かというものを整理したほうがよい。それは観光にも言えることで、基幹産業と言っているものの、市としての戦略的コンテンツが掲載されている総合パンフレットがないことに驚いた。総合パンフレットがないということは、観光に対して市の戦略がなく、何が魅力的で何を売り込みたいのかがわからない。また駅前の活性化について、修善寺駅の観光客が来なくなったのはそれだけニーズがなくなったということであり、新しく活性化させるということに矛盾を感じている。駅前について、何もしないのは良くないが、何かをしなければならぬのは当人たちで、地元で商売を行っている方が頑張らなくてはいけないと思う。商売をやられている方は多いと思うが、中心市街地に力を注ぐよりも、若者など頑張っている人に対しバックアップをして育てていく方がよいと思う。

<重点目標5>

委員)

子育て教育環境の充実においても、若者の生活環境を今後どう作っていくかといった取り組みがない。人口減少・少子化対策が入っていないと思うので、この点について聞きたい。

事務局)

中心市街地の活性化をもって伊豆市は活力あるまちづくりを進めながら、子育て支援を行ってきたが、今後子育て支援や教育に重点を置いた施策を打ち出す必要がある。今回の改定で総合的に対応していかなければ人口減少に歯止めがかからない。今回は中心部の賑わいと子育て環境に重点をおいてやっていくという改定になっている。

委員)

教育は大事なことで、以前市長が「伊豆市の教育が素晴らしいので、伊豆市の学校に通わせたいと思うような学校づくりをしていきたい」という話があった。教育は50年100年後を見据え、将来伊豆市で素晴らしい人間を育てていく計画を立てていかなければならない。そのためには何が必要なかを議論してほしい。

委員)

伊豆市内にいい中学校を作っただけであれば、いい教育が受けられる。そうするといい高校、いい大学に進むことができる。そうした中学校を作ることで、若者世代や子どもが増えるとともに、人口減少も少なくなり、住みやすい環境を作ることができる。また伊豆市への愛着もわく。是非いい中学校を作る構想としていただきたい。

（その他）

委員） 総合計画について、計画に伴って財政も必要となるが、なぜ総合計画には財政がついていないのか。

事務局） 本来であれば財政計画が総合計画についているのがそぐわしく、全国の総合計画だと末尾に財政がついているものとないものがある。それは総合計画が10年という期間であるため、財政計画を立てると、見込み等は推計することとなり、財政計画に限界が出てくる。ただ前期の5年とかでは大規模プロジェクトが明確になっているため、実現可能な裏付けが必要となるが、伊豆市の場合は財政計画をつけていない。ただ現在財政シミュレーションを財政課で行っており、近々の計画を見直すとうなるかという検討を行っている。

委員） 伊豆市は地方交付税が大きいですが、これはなぜか。

事務局） 基準財政需要額に対する収入が少ないことが理由だが、平成32年には伊豆市を一つの市として算定することとなり、その結果交付税は10数億下がる。今後日本全国の交付税がどうなるかわからない。現在、伊豆市は約30%交付税に依存している。

委員） それを含めて総合計画を練っていただきたい。

4. その他

- 第2次伊豆市総合計画改定案のパブリックコメントの実施について説明があった。
- 次回の会議は平成30年2月7日（水）午後7時より同会場で開催予定。

5. 閉会